

## 2. 学部授業科目

授業科目名 (英文表記)	生老病死の哲学 ―今、有吉佐和子を読み直す (A philosophy of human life)		
単位数	2 (学部生のみ)	授業形態	講義
担当教員	天野 雅郎		
開 講	南紀熊野サテライト	区 分	学部開放科目
実施日・時間	① 10月20日(土) 13:00～17:00		
	② 11月17日(土) 13:00～17:00		
	③ 12月1日(土) 13:00～17:00		
	④ 1月12日(土) 13:00～17:00		
	⑤ 2月9日(土) 13:00～17:00		
	⑥ 2月16日(土) 13:00～17:00		
<p><b>【授業のねらい・概要】</b>          哲学は難しい、という印象を多くの人が持っています。          たしかに、哲学は難しく、ひよっとすると全ての学問の中で、もっとも難しい学問であるのかも知れません。          けれども、それと同時に哲学は、いたって易しい、すべての人に開かれた学問(と言うよりも、学問以前の学問)であることも事実です。この授業では、そのような哲学の難しさと易しさを、あたかも「茶の湯」(=茶道)と「日常茶飯」の両面から、お茶を飲み、ご飯を食べるかのよう、皆さんに伝えることが叶えば幸いです。</p> <p>テーマには、人間の「生老病死」を選んでみました。          なぜなら、このテーマこそは皆さんが、誰も必ず、誰一人の例外もなく、何らかの形で関わり合い、関わり合わざるをえない、まさしく永遠の哲学的主題であるからです。          この授業では、このような人間の「生老病死」の問題を、皆さんと共に、お互いの生活や人生を踏まえつつ、これを振り返りながら、見つめ直すことが出来れば、と願っています。          文字どおりに、大人から子供(同伴可能)まで、多くの皆さんの参加を期待します。</p> <p><b>【授業計画】</b> ※記載の内容は変更することもあります。          この授業では、このような人間の「生老病死」の問題を扱うために、具体的に和歌山が生んだ、もっとも著名な作家の一人である、有吉佐和子(1931-84)を取り上げます。          そして、その代表作を毎回、読み進め、地域や家族や介護の問題を考えながら、あわせて懐かしい映画も鑑賞しつつ、逆に現時点であるからこそ分かる、有吉佐和子の卓抜な先見性と、類い稀な物語作家(ストーリーテラー)としての力量を再評価したい、と思っています。</p> <p>今回は主として、有吉佐和子の1950年代から70年代へと至る、それぞれの時代を代表する三作品(『紀ノ川』『華岡青洲の妻』『恍惚の人』)を考察の対象とします。          そのことを通じて、あらためて21世紀の「今、有吉佐和子を読み直す」意義と価値を、皆さんと一緒に再確認できれば、と願っています。</p> <p>第1回 『紀ノ川』講読(+映画鑑賞)          第2回 同上          第3回 『華岡青洲の妻』講読(+映画鑑賞)          第4回 同上          第5回 『恍惚の人』講読(+映画鑑賞)          第6回 同上</p> <p><b>【到達目標】</b>          人間の「生老病死」を受け止め、それを介して「今、有吉佐和子を読み直す」意義と価値を理解する。</p> <p><b>【教科書】</b>          有吉佐和子『紀ノ川』『華岡青洲の妻』『恍惚の人』</p> <p><b>【参考書】</b>          適宜、紹介します。</p> <p><b>【授業時間外学習】</b>          毎回、テキストの所定の箇所を読んだ上で、授業に参加することが必要です。可能であれば、授業で扱う以外の、有吉佐和子の作品群にも親しんで下さい。</p> <p><b>【履修上の注意・メッセージ】</b>          特に、ありません。</p>			